駒の館だより

明治鍼灸大学図書館報

第 15 号

平成8年3月1日　発行

明治鍼灸大学附属図書館

〒629-03 京都府船井郡日吉町
TEL. 0771－72－1181㈹

目　次

附属病院長おおいに図書館を語る …… 小関忠尚 … 2

図書貸出自動化始動 …… 附属図書館 … 3

図書館へちょっと一言
…… 宿野　孝、今井賢治、上藤美和、行待寿紀 … 4

私のお薦めの一冊 …… 篠原昭二 … 9

卒業生の皆さんへ …… 附属図書館 … 10

図書館運営委員会記事
…… 附属図書館 … 11

図書館データ、データ
…… 附属図書館 … 13

図書館学蘊蓄
…… 福田代見 … 15

新着東医系図書及び
医学系視聴覚資料一覧
…… 附属図書館 … 19

病院長おおいに図書館を語る

── 臨床医学と図書館 ──

附属病院長　小　関　忠　尚

臨床医学教育において図書館へ期待するものというテーマで一筆お願いしたいという森本図書館長からのご依頼であるが、今まで臨床の現場に携わって来た私は、教育には余り経験が無い。又、東洋医学臨床のお立場からは違ったご意見もおありの事と思うので、今回は西洋医学に携わる臨床医として図書館に対するお願いを少し述べて見ることにした。

図書館では、カード目録による図書検索に加えて、コンピューターシステムによる検索システムが導入され、紙メディア図書館から機械化図書館へと一歩前進し、サービスが向上した。又、開架図書が大幅に増え、ほぼ12,000冊が開架となり、図書館に収納された医学文献の約70％を利用者が直接手にとって選べるようになった。図書館利用の目的は、単にお目当ての文献を目録で検索して借用するだけではない。蔵書がきちんと整理されたアカデミックな雰囲気の中で、書架に並んでいる文献をゆっくりbrowsingするのも楽しみの一つで、思いがけない文献を見つけた時の喜びは大きい。それには、開架図書が少しでも多い方が有り難いし、静かで、落ち着いて本が読める雰囲気の図書館であって欲しい。

臨床医が診察方針を決意するためには医学知識が必要である。「医学は不確実性の科学であり、確率の技術である。」（ウイリアム・オスラー）と言われる通り、医学は統計学であって、ある治療法が統計学的に有効と判定されても、臨床の現場で、統計の中の個である一人の患者に応用して何時も有効であるとの保証はない。医師は今まで積んで来た臨床経験を生かして、自分の持っている医学知識の中から、その患者に最も適していると思われる治療法を選択して、匙加減をしながら治療しなければならない。従って、臨床医は臨床経験を積むと共に、たえず勉強して豊富な医学知識を蓄えて置く必要がある。

ところが、最近は、免疫学や分子生物学の進歩によって、今まで全く不明であった自己免疫疾患の発症メカニズムの解明が急速に進み始め、診断や治療に新しい道が開かれようとしている等、臨床医学の進歩は日進月歩で、習得した医学知識の半減期は2年と言われている。従って、最前線の臨床医は、患者の治療に寄与するため、常に最新の文献に目を通して、新しい知識を習得せねばならない。

図書館では、新着の医学雑誌を1年間病院保管として、職員が何時でも目を通すことができるように配慮して頂いており、大変助かっているが、時に、年間数冊が散逸してしまう事がある。「紛失が起こるのは良く読まれている証拠で、本は活用されてこそ存在意識がある。」では済まされない問題である。病院でお預かりした図書は一冊も紛失してはならない。図書は、管理棟の医局ラウンジに保管しているが、この部屋にはＯＡ機器があり利用者の出入りが激しい。せめて、個室に図書を保管して、関東逓信病院のようなカードチェックドア方式にすれば、もう少し管理し易くなるのではないか、検討の必要がある。

医学の急速な進歩に伴って、最近では、医学情報の量は、人間が記憶できる限界を遥に越えた膨大な量になっている。その中から必要な情報を見つけ出すには、印刷された書誌や目録をマニュアルで検索する従来の方法では間に合わなくなり、パソコンの普及、コンピューター・ネットワークの発達、ＣＤ－ＲＯＭによる電子出版物の増加など、医療関係者の知的活動環境の大きな変化に伴って、オンラインやＣＤ－ＲＯＭで文献検索をする人が増えている。オンライン端末による検索は人手が掛かるので、学内のキャンパス・ネットワークが出来た時、図書館にＣＤ－ＲＯＭサーバーを置き、ＣＤ－ＲＯＭを揃えて、病院など学内の各部署から、各自が何時でも文献検索が出来るようになれば良いと思う。

本学の図書館には相当な医学書を揃えて頂いているが、それでも図書館にない文献が必要なこともある。今までは製薬会社の文献情報サービスを利用して文献を手に入れる事が出来たが、平成5年4月から、このサービスが医療用医薬品製造業公正取引協議会の通達で自粛されたため、自分で文献を探さなければならなくなったが、自分で文献の所在を確かめて手に入れるには、個人の力では限界がある。やはり、本学の学術情報提供の窓口である図書館で個人の文献入手を支援して欲しい。製薬会社の文献情報サービスの自粛が病院や大学の図書館ネットワークに大きな影響を及ぼし、施設間の文献相互貸借業務も深刻な状態になっているようであるが、学外の図書館との間で文献相互貸借協定を結ぶ等、図書館が文献入手の窓口になって頂ければ有り難いと思う。

生物・医学系の雑誌の全文内容を、写真や図表を含めた画像情報として収録したＣＤ－ＲＯＭ製品のＡＤＯＮＩＳが1991年より市販されており、国内文献の一次情報も次第にＣＤ－ＲＯＭ製品として提供されるようになると思われる。本学の図書館が全部、電子図書館になるのはまだまだ先であるとしても、将来、医学雑誌を電子文献の形で入手して学内の何処からでもアクセス出来るようにして頂くと色々な問題が解決すると思われる。費用も人手も全く度外視した、夢物語のお願いである。

船井郡の名勝、丹波町水戸の琴滝。滝の水が琴の糸のようだということでその名がある。頃は五月、新緑に映える。

図書貸出自動化完成

附属図書館

図書館利用の皆さん長いことお待たせしました。図書館報＃13にて予告、約束しておりました図書の貸出の自動化がやっと平成8年度より始動することになりました。ただ、今時、貸出をいちいち手書きでやっている図書館は少数派であり、今頃になってやっと自動化しましたと派手に宣伝するのは気恥ずかしい想いです。がとにかく始動することになりました。

自動化の利用者にとっての利便は今まで（特に学生諸君の場合)、まず図書館資料利用申込書と図書貸出証に必要事項を書いて、更に帯出カードに書き込んでという手間をかけていたわけですが、今後はそれは一切無くなるはずです。ただ閉架にあるものについては最初の手間は必要になります。また欲しい図書がないとき、それがどこへいっているのかを検索することは従来受け付けの職員の個人的な能力に頼っていたので、ときによっては大変な時間がかかることもありましたが、今後は瞬時に可能になります。

実は自動化は利用者の便益というよりも図書館サイドにとって大きな利益をもたらせてくれます。開架の増えた分、貸出も増加します。増えた貸出カードの管理だけでウンザリしていたのが、かなりな部分減らせるからです。

移行の手続きは以下のようになります。

◎学生、卒後研修生等の場合

新年度になりますと希望者は図書カードの発行を申請してください。そのときバーコードつきのカードを渡します。無料です。これは在学中有効ですので大事に取り扱って下さい。多数回の使用により使用不能となった場合は

現物と交換で無料で再発行します。紛失あるいは正常でない取り扱いによって使用不能となった場合には実費（200円程度）にて新カードを発行する予定です。

◎職員の場合

既に多数の図書を借り出されている場合が多い。カードに移行するためには一度全て返却して頂いてから処理を行なう必要があります。これを強引に行ないますと混乱が生ずる恐れがありますので、当面は従来の方式と並行して取り扱うことになります。カードは申し込んで頂ければ即座に発行致します。できますことならば是非一度図書館より貸出を受けている図書を全て返却して新たにカードによる貸出を行なって頂くようお願い申し上げます。

今後ますます図書館ではいろんな面での電子化、自動化が進んでいくものと想われます。それに対応して我々図書館職員も勉強を続けていかなければなりません。利用者の皆さんにもそれなりの対応をお願いすることになろうかと思います。その際はよろしくご協力の程を今からお願い申し上げておきます。

学習棟３Ｆ西側バルコニーより望む西山の雪景色

図書館へちょっと一言

『図書館を考察する』

亀岡、近藤鍼灸院勤務
８期卒業生
宿野　孝

今まで図書館について思うところは多々あったが、期せずして図書館について書く機会を得た。今回は卒業生の図書館利用や図書館とその蔵書、図書館の展望等について書いてみたいと思う。

現在私は主に自分のテーマである『古典文献からの鍼灸の把握』という観点で図書館の書籍を利用している。利用の内容は、図書の借出と雑誌の閲覧がほとんどである。頻度は月に１、２度程度であろうか。利用してみて感じたが、卒業生が図書館を利用する環境については、そんなに悪くないというのが私の印象である。利用の度に「利用許可書」なるものを書かされるのは面倒ではあるが、３冊の本を１ヵ月間借りることが可能である。また、私は未だ利用したことはないが、図書館長によると「利用許可書」さえ記入すれば、学生時代かなわなかった閉架図書の閲覧も可能であるとのことで、雑誌のバックナンバー検索等には非常に便利でありがたい。

しかし、この様な状況にあっても、やはり卒業生には大学図書館は利用しにくいだろうと思うのは、図書館が交通不便な僻地にあるという、解決不可能な問題があるからである。図書の返却が郵送可であれば良いが、これは無責任を指摘されてもおかしくない。また、卒業生が図書館の利用環境を知る機会が少ないことも十分考えられる。これには、卒業時に図書館利用環境を分かりやすく提示するなどして対応してほしい。これ以上は、卒業生が図書館利用に、意欲と目的意識、そして行動力を持っているかということになるので、図書館自体の問題ではない。

次に、蔵書管理について考察してみよう。図書館の図書は、開架図書と閉架図書に分けられる。閉架図書については、以前から開架にしてほしいとする要求が強い。これに対し、図書館

では、開架図書を増やすことで対応している。しかし、現状で閉架図書がすべて開架となるのは、非常に問題がある。閉架図書に高価で希少なものが多いのと、開架では無断帯出、盗難という現実問題を無視できないためである。閉架図書の利用は、コンピューターによる図書検索導入で随分利用しやすくなった。この検索には、まだ改良の余地があるだろうが、非常に役に立っていると思う。欲を言えば、閉架図書の図書目録があればより便利となるだろう。図書管理については、もう一つ問題がある。蔵書を収納する空間的な問題である。これは図書の充実のためには書かせない問題であるが、現状では、これ以上の図書の所蔵空間の拡大は望めそうもない。今後、別の場所に図書館を設置する必然性が出てくるのではなかろうか。

さらに、図書館の蔵書の量と質について論じてみよう。東洋医学関係に限るが、近年日本で出版されている書籍で、本学の図書館で所蔵されている割合は、果たして7割あるのか疑問である。比較的高価と思われる古典医書の復刻版が、随分所蔵されているのは評価に値するが、全体的には不十分さを隠せない。また、蔵書量以上に問題を感じるのは、蔵書内容である。蔵書内容から察するに、図書購入時の書目選定は散発的でおよそ無計画なのではなかろうか。日本以外では、中国の文献が最近ほとんど購入されていないように見受けられる。中国では、国家レベルで研究が行われているため、研究書として、また一級の資料として価値の高い文献が多い。さらにここ2、3年出版点数が増加傾向にある。これに対応できていない事実は、明治鍼灸大学の図書館が、今後鍼灸界の最高研究機関の情報発信地として機能するための大きな障害となる可能性を有している。

以上の問題に対し、しかるべき提言をするとすれば、まず、図書館施設の将来的展望を具体化すること。そして、それに基づく図書の長期的購入計画を立てることであろう。この購入計画は、現在の出版状況（出版社／出版点数／在庫の多少・有無等）の実態を調査把握するところから始まり、古書店をも視野に入れた入手経路の確保が必要である。購入順序には、研究・教育の参考資料となる図書の列挙と、優先順位の検討が不可欠となる。当然これらは、大学の教員の協力があればこそで、図書館の職員のみでは到底可能な仕事ではない。何とか大学全体で対応してほしいものである。

勝手なことをあれこれ書いたが、明治鍼灸大学には是非、鍼灸業界における最高の情報機関になってもらいたい。そのためにはやはり、図書館の充実は欠かせないだろう。私は、求める情報が得られる環境は、どんな卒後教育よりも有意義であると思っている。卒業生の一人として、今後の図書館に期待したい。

ユーザーからの一言

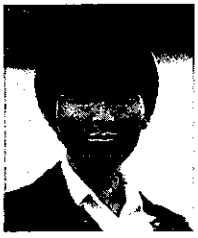
大学院博士課程2年
今井賢治

最近の本学図書館は、数年前に比べ非常に使いやすくなってきたように感じる。以前は雑誌のバックナンバー等が奥の方に山積みになっていて、とても見苦しく、使い勝手も悪かった。現在の整理された図書館を心地良く感じるのは私ばかりではないだろう。しかし、他の医学系大学の図書館似比べると規模は小さく、所蔵図書・雑誌の数が少ないため、文献収集をするには満足できる環境とは言い難い。もちろん贅沢を言ったらきりがなく、本学の歴史がまだ浅いぶん仕方のない事も多いとは思う。

私は、文献収集をする際には、たいがい京大医学部、京都府立医大、阪大医学部のいづれかの図書館に出向くようにしている（多くの院生もこれらの図書館を利用している）。本学でも必要な最新文献の選定はMEDLINEや医学中央雑誌（CD－ROMを病院事務が保管）、またCurrent Contents（図書館所蔵）を使用すれば、充分な情報を得ることは可能であり、大いに役立っていると思う。しかしながら、世界的にポピュラーな雑誌であるにもかかわらず、本学図書館で定期購読のされていない雑誌の閲覧・複写が必要なため、必然的に他大学の図書館を利用する頻度が高くなってしまう。正直言って、京都市内までわざわざ一日費やして文献検索に行くのは、私にとっては面倒くさい作業である（夢にまでみた文献を探しに行くという楽

しみが無いわけではないが……)。いずれにしろ、より本学図書館の所蔵図書・雑誌の充実を願う次第である。またこの場を借りて、図書館での定期購読に加えて欲しい雑誌に関して、個人的な要望であるが聞いていただきたい。American Journal of Physiologyという生理学系では有名な雑誌の定期購読を検討して欲しく思う。この雑誌の被引用数による雑誌順位(ＳＣＩ Journal Citation Reports)は、15位前後に位置していることから、多くの関連領域の研究者に読まれていることは明らかである。もし、この雑誌が定期購読されたなら、最新号を心待ちにする先生方も多いのではないだろうかと思う。何故、このような事をあえてこの場でお願いするかというと、通常の場合にこのようなユーザーの声はどこに申し入れればいいのかが判らないからである。

以前に図書館から学術雑誌の利用アンケートがあったのを記憶している。図書館側も試行錯誤の中でより良い方向へ改革しようとしているのだろうと勝手に想像していた。前述の如く他大学の図書館を訪れると、何れの図書館も立派で、所蔵図書を見渡すとその大学の歴史や風格さえ感じる程である。図書館は大学にとって情報の中枢であり、まさに“顔”に相当するように思う。私は修士課程の1期生として本学に入学してから、もうすぐ丸5年を迎え、最近ようやく本学に愛着を感じるようになってきた。今後、本学の情報中枢として、図書館にどのような風格が備わっていくのかが楽しみであり、より良い方向へと発展することを期待している。



図書館を全部開架にして

2回生
上藤美和

みなさんは、閉架図書の中にどんな本があるか、ご存知じですか？私は2年生も半ばを過ぎた頃、初めて中にいれてもらって驚きました。あまりにも普通の本が、たくさん隠されていたからです(あの状態なら“隠されている”と言っても過言ではないでしょう)。閉架図書とはそもそも、高価で貴重な専門書をむやみに触れられて、傷つけられないようにするための場所だと思います。なのになぜ安価な小説があんなに置かれているのでしょう？図書館長に問い合せてみたところ、他に置く場所がないのだそうです。その言い分もあの広さでは分からないではないですが、私としては、閉架のスペースを狭くするなり、古い雑誌を取り除くなりして、もう少し本を開架にする努力をしてもらいたいです。少し前の話題になったような新しい本もたくさんありました。あのままほとんど誰の目にも触れることなく色褪せて、古い本になってしまうのかと思うと悲しくなります。

図書をどう選ぶのかたずねたところ、各方面からの希望(学生を含む)を優先的に購入するのだがそれは例年非常に少ないので図書館で最近話題になっているものとか、各分野のものをバランスよく購入することにしているとのことでした。新しい本を購入するのはとてもいいことです。でも購入したらその分だけ開架図書を増やしてほしいのです。図書館としてもどんどん新しい本が増えるばかりで、置き場所にも困っているところがあるようなので、図書購入の予算の一部＋αでなんとか図書館を広くできないのでしょうか？このままでは閉架図書として埋もれている本がかわいそうです。

これは最近知ったことなのですが、閉架書架への出入りは、誰か先生に、図書館司書の方にお願いしてもらったらそれで許可されるのだそうです。もし図書検索器をうまく利用できるのならそれでいいのですが、(私のように)そうでない人は、この方法がいいでしょう。本を丁寧に扱う人、本が大好きな人は一度閉架書庫に入ってみることをお薦めします。そして好きな本をどんどん読めばいいと思います。

本は読まれるためにあるのです。読まれるためには、みんなの目につく場所に置かれなければならない－これは図書館の基本です。それができないなら新しい本は買わない方がましです。そうすればそれは別の人に買われて、ちゃんと読んでもらえるのですから……。図書館には、せっかく購入した本が無駄にならないような工夫をお願いしたいと思います。

図書館雑感

麻酔科学教室
行　待　寿　紀

日本海沿岸の片田舎の小学校時代、どうゆうわけかよく図書委員をおおせつかうことが多かった。近頃のような有名校への進学とかきびしい受験とはき全く無援の頃でもあり、下校後に教科書を開くとか何か勉強をするなどは極くまれにしかなく。ただ何冊かの教科書とノートが1～2冊、それに筆箱を入れた下げ鞄を学校への行き帰りに運ぶという日課であった。こんな自分に何故に図書委員のおはちがまわってきたのか今もって不思議である。

本を読みたいという気が起こったきっかけは、近くの公民館で週に1～2回だが本の貸し出しが始まったことによる。小学校の4年頃のある日、一冊の探偵本（江戸川乱歩のシリーズ本）を読みはじめたのがきっかけで、毎日夜の2時頃まで読み耽ることとなった。当時、映画では鞍馬天狗（嵐寛十郎主演）が人気であったが、「ダイブツジロウ」とばかり思っていた原作者が実は「オサラギジロウ（大仏次郎）」であることを知ったのもこの頃である。

中学に入った頃、初めて「シベリヤ物語」という色付きの洋画を観たのがきっかけで図書室で洋画の本を読むようになった。しかし、洋画は好きであったが英語の授業はさんざんであった。あまりの成績の悪さに業をにやしたのか、英語担当の教師が小生の父親を呼び付けて一冊の文法の本を手渡したのである。ところでこの文法の本であるが、英語のきらいな小生にとっても本当に「かゆい所に手が届く」というほどの判りやすい説明で書かれており、10月も終わる頃から毎夜、探偵本を読むような気軽さで読み耽った。おかげで1年の3学期の成績をもらう頃にはあれほど困惑していた英語の教師から大変に讃められ、今度はこちらが困惑したことを覚えている。

図書館の必要なことを初めて意識したのは高校生の頃である。田舎の高校であったので卒業後は就職するものが多く、大学進学を目指すのは同学年で1/4から1/3程の人数である。当時は学校の図書館には進学のための参考書や大学の情報に関する雑誌などもほとんど無く、もっぱら近くの小さな書店の一角に置いてある受験雑誌に頼るしか方法がなかった。同級生の中には都会にいる兄弟などに頼んで希望の参考書などを手に入れたり、また自ら京都、大阪の書店に行く者も何人かはいたが我々には望むべくも無かった。いろいろな情報や自分の希望する書物が手近で得られるような場所の必要性をこの時ほど痛感したことはなかった。

大学の教養時代は図書館によくお世話になった。当時はまだ独語が英語よりも重視されていたので、週3回の講義（英語は週1回）は徹底したhearing, dictation, speakingをたたき込まれた。これだけでも毎週が大変で一割位のものが落後するほどであつたが、これに更に生物、物理、化学の膨大にして詳細な資料が配布され、これに目を通すという毎日であった。幸いにして図書館の閲覧室が毎日8時半ごろまで利用できたので、講義終了後はフルに活用した。またこの頃は国文学や社会思想などの選択科目もあり、源氏物語や万葉集をはじめとしてマックスウエーバーに関する講義も受けることができた。忙しい毎日ではあったが、その合間に図書館で日本文学の古典や哲学書、マックスウエーバーに関する書物が読めたことは非常に貴重な体験であった。

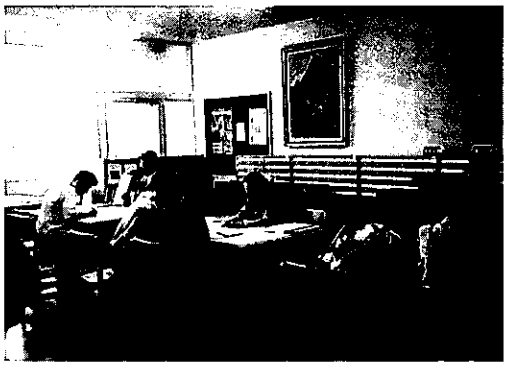
大学では図書館のほか各医局で図書室を有するところが多い。20年前頃であったが岡山大学の麻酔科の図書室を訪れたおり、基礎から臨床にいたる内外の書籍が豊富に管理されているのを観て圧倒されたことが忘れられない。当時、この大学の麻酔科では日本でも最多といわれるほどのスタッフをそろえ、手術室、ＩＣＵならびにペインクリニックでの教育・研究のトップを窺っていたのである。

その後京大病院に在席したおり、当時の外科では数年後の生体肝移植にそなえて着々と準備を進めていた頃であったが、医局の図書室には著名な外国雑誌が備えられておりいつでも目を通すことが可能であり、また海外赴任を終えて帰国した同僚から新しい情報を得ることも容易であった。臨床に振り回されてせっかくの豊富な文献を十分に利用できなかったのが非常に悔やまれる。

大学病院のほか数箇所の救急病院も経験したが、活発な病院には医局の図書室にかなりの書籍がそなえてあった。しかし、大体が内科、外科、救急医療に関する和書が主で外国の文献は少ないようである。内科はいうまでもなく外科や整形外科から脳外科にわたるいろいろな救急の患者さんが、しかも何時来るかもしれないというスリルにとんだ医療であり、医局で読んで得た知識がそのまま即応用できるというのも魅力であった。当直や祭日の日直の折りには診察の合間をぬって図書室の本を読み漁ったのが良い思い出となっている。

鍼灸大学に赴任後東洋医学を学ぶべく種々の書物を探したが、小生が一番求めている内容の書物を見付けたのは残念ながら救急病院の図書室の棚の片隅であった。私立大学の図書館であるのであまり期待はしない方が良いとは思っているが、たまには「かゆい所に手がとどく」ような書物との出会いがあればとは思う。御叱りを受けるかもしれないが、東洋医学関係の書籍の中にはほとんど読まれていない書籍や、本当に必要かと考えさせられるようなものもある。

図書館に関する最近の一番の悩みといえば、集めた内外の資料に目を通す時間が十分になくて、なかなか図書館に行く時間が取れないということであろうか？。これも本大学の現状からあまり期待しない方が良いのではと思っているが、こんなことを書くとなお一層の御叱りを受けることになるのであろうから、本日はこれにて終わります。



平成7年8月1、2日に行なわれたオープンキャンパス風景。始めての試みとして図書館内で相談会が行なわれた。

図書館よりの回答

（文責、附属図書館長・森本安夫）

◎宿野、今井、行待の各氏からのご要望はもっともなことでありますが、費用、人員、施設の基本的な要件が満たされなければ対応できませんし、もし満たされれば最大限の努力を開始することをお約束しておきます。

◎上藤氏の全面開架の要求は現在の図書館の努力だけで対応でき、従来からその検討はなされておりますが実現に至っておりません（その理由は後程述べます）。ここで簡単に回答（弁解？）をしておきます。まず“閉架には高価で貴重な図書がある”という誤解を解いて下さい。全面開架をしたいのですが、できないのでせめて、学生諸君にとって有用な図書は可能な限り開架に出したのです。ですから閉架に残っているのは“安価でつまらない本ばかり”という評価は当然でむしろ我々の判断が正しかったわけです。ただ問題は平均して各学年に0.5人くらいの割合で“本の虫”とでも呼ぶべき大変な読書好きの人が輩出します。それらの人々にとっては閉架にある“安価でつまらない本”に対する要求の方が強い場合がおうおうにしてあります。当然のことと思います。これは今までの経験で非常に少数の事例であることが分かっていますので個別に対応したいと思います。閉架で図書を捜したいときは遠慮無く受け付けに申し出て下さい。特別の場合を除きご要望に沿うよう、とりはからせて頂きます。なお4回生の皆さんについてはゼミの都合がありますので、従来より担当教官からの一報で自由に出入りしてもらっております。

◎全面開架をした場合我々が最も心配していることは製本雑誌の扱いです。学術雑誌は最新号があるのみでは役に立たず、これを製本し保存する必要があります。これは研究活動を保証するための図書館の基本的な仕事の一つです。これが厄介なのです。単行本なら使い古してボロボロになれば、新たに購入すれば良いのですが、雑誌の場合はそうはいきません。丁寧な扱いが必要になります。それを入学したばかりの諸君が物珍しさからパラパラ

めくるのを考えると背筋が寒くなるのです。そんな訳でどこの図書館でも、製本雑誌は学生とは隔離された環境に置かれるのが普通です。ですからここでもそんなスペースがあればすぐにでも全面開架に踏み切れるのですが、施設がからみますと図書館の力だけではどうしょうもありません。図書館の一角を仕切ることも考えてみましたが、この図書館は当初全面閉架で出発しておりますのでそれも難しい状況です。いずれはそうしなければならないとは思っておりますが、もう少しの猶予を頂きたいと思います。なにしろ17年という時間の慣性はそんなに小さいものではないのです。

平成７年11月20日、突然現れた聖歌隊。２年生有志による。

私のおすすめの一冊 【新 刊 紹 介】

淀川長治氏・「生死半々」 幻冬社、1000円、1995. 10月刊

鍼灸診断学教室 篠 原 昭 二

本年６月より大学に隣接する特別養護老人ホーム「はぎの里」において、老年ケア実習として鍼灸臨床が開始された。そこで、高齢者の生活、痴呆老人の実態等を目の当たりにし、少々戸惑いを感じていた。幼い頃に見てきた祖父の生活は、動ける間はスローモーではあっても野良仕事や家の掃除、片づけ、草取り等々を行い、一休みの合間にはキセルのタバコを燻（くゆら）せながら、いろんな話をしてくれた。「たんぼの稲は百姓の足音が最高の栄養なんじゃ」、「草を取ってやらんと、作物が苦しがる」、「虫を捕ってやらねば」、「ちょっと肥料を足さねばならぬ」……毎日を生き甲斐に動ける最後までを生き生きと生きたように思う。幼いときの出来事であるために、大変なことは見過ごしてしまったのかもしれないが、ゲームをしたり、カラオケをしたり、また、至れり尽くせりの生活を送る姿とはほど遠いものであったように思う。

そういった生活がどうかと言うつもりは全くないが、翻って、もしも年老いて自分の体が不自由になったときにどうするだろうと考えたとき、やはり祖父のような生き方を選びたいと思う。定年までが人生で、それから後が余生であるとは決して思わない。

日曜洋画劇場の解説者で、「さよなら、さよなら、さよなら……」でおなじみの、映画評論家・淀川長治氏（86歳）の「生死半々」（幻冬社、1000円）にふと惹かれた。

今日は人生で最後の日、そんな気持ちで生きていますから、何時死んでも後悔しません。死について真剣に考えれば考えるほど、今の生を大事にしたくなるんですよ。死ぬことは生きること。死ぬことから目をそらす人は、先のことばかり考えて、生きることを大事にしないのね。……もし、24時間しか生きられないことが判ったら何をするか。

毎日毎日がもったいなくて、やりたいことがたくさんあって、ボーと一日を過ごすことなんてとても苦痛に思えるんです。つまらないことに時間をとられるとなにをつまらないことをと、怒って膝をつねってやるんです（老人にとっての一秒は、命を刻む一秒なんです）……

……僕は４才の時から映画を見てきました。昔は映画がいろんな人生を教えてくれたんですよ。だから80年も人間学校へ通っているわけね。……

死ぬこと、愛すること、働くことを映画から随分教わりました。

人生の終わりに心から好きになれる相手に出会える人は幸せです。誰も好きになれず、愛する相手がいないまま死ぬのはとても不幸なこと。……心の底から「好きだ、好きだ」と思える相手の姿を身ながら死んでいくのなら、たとえ相手が気づいてくれていなくても、満ち足りた気持ちで最後を迎えることが出気るのではないでしょうか。

死を幸福なものにするのも、死を美しく演出するのも、すべては愛。死に行く人の気持ちを支えてくれるのは、心からの愛情です。……どんな死に方をしてもそれだけで幸か不幸かは判断できません。幸福な死に方をするために大切なのは、その瞬間に誰かの愛が感じられること……

若い人は年寄りを生きた化石ぐらいにしか思っていませんから、こちらのことを「生きた化石」ではなく、「同じ時代に生きている大切な先輩」だと思わなければ……昔から積み重ねてきた経験を今の世の中に役立てるためには、やはり現代的な感覚を養わなければいけない。

人間、「これだけは絶対に捨てられない」という好きな物が一つあれば、どんなつらいことがあっても、力強く生きていくことが出来る。特に若い人たちには、自分の人生をすべて捧げても悔いの残らないような本当に好きな道を見つけてもらいたい。そして、そんな道を見つけたなら、どんな苦労をしてでも真っ直ぐに進んでもらいたい。

色々書くつもりが、抜粋の連続になってしまった。別の本の紹介をするつもりであったが、ついつい手にした本に惹かれて読んでみたものの、「これが86歳の人の書く内容か./」と、驚き、納得しそして感心してしまった。

一角の人にはそれなりの哲学があるものだと思うが、若い学生諸君にも是非一読を勧めたい。

生理学実習開始と共に混雑する閲覧室。この時期はここは専らレポート作成の場と化す。

卒業生の皆さんへ

附　属　図　書　館

卒業おめでとうございます。長いようで短く、短いようで長い4年間、あるいは5年間を無事に、あるいは無事ではなく過ごされてここに至られたこと、まことに感無量のものがあることと存じます。今後大部分の皆さんは鍼灸の技術で世に身を処していかれることになると思います。これから二つの問題がうかんでくることでしょう。一つは当然のことですが“治療できる鍼灸の技術”を身につけること、もう一つは患者との“さりげない対話”ができることです。

後者については学生時代には患者も相手が学生だと思っておりますから、そんなに問題になることはないと思いますが、就職したり、開業したとき実際に皆さんのもとにやってくる患者は病気や故障だけをかかえてやってくるわけではなく、様々な主義、主張、趣味、社会的関心事、あるいは健康や身体、医学の疑問等を携えてやってくることになります。治療をしながらあるいは一服をしながらの世間話に興じるとき、受け答えにうまく対応できなければ、ひそかに軽蔑の目でみられその挙げ句、本来あるべき治療の効果の程も現われないといった憂き目をみ、引き続き治療所へやってきてくれないことは必定です。どうすればいいのでしょうか。勉強する以外にありません。社会的な事柄ならとりあえずは近くの本屋にでも駆け込んで最近の話題を仕入れるとか、医学上の問題なら昔勉強した

教科書を読み直すことで話はつくでしょう。

前者については、最も深刻な問題ですから在学中から東医系の先生やアルバイト先の先生などから技術を教えてもらったりあるいは盗んだりと、いろいろ対応されていることと思います。そうして身につけた技術は最終的には苦労の末自分なりの方向を見いだして自分のものにして役に立っていくことでしょう。しかし少し時間がたって落ち着いたとき、こんな疑問が浮かんでくるはずです。はたして自分の習得した技術は確かなものだろうか？世の中にはもっと優れた技術があるのではないだろうか？自分が臨床に明け暮れている間に、世間が進んだため“相対的に”世の中から取り残されているのではないだろうか？こういった疑問は当然のことであり、もしそんな思いを抱かないとすればそれは世にも優れて幸福な人（？）というべきでしょう。そんなときどうすればいいのでしょうか？どうしても医学あるいは鍼灸の専門の雑誌に目を通し自分流の技術がはたして妥当なものか、それとももっと他に良い方法があるのかといった疑問に回答を求めていく必要があります。街の本屋ではすこしばかり手に余ることでしょう。そんなとき我が図書館は皆さんの強い味方になりたいと思っております。専門の雑誌というのは必要な号だけ揃えたのではあまり訳に立ちません。必要であるか否かを問わず全ての出版を取り揃えていることが肝要です。そんな贅沢ができるのは図書館だけです。特に本学は日本では唯一の鍼灸に関する大学です。医学の専門雑誌はもちろんのこと、鍼灸に関する専門の雑誌も日本では有数の規模で取り揃えております。我が図書館は皆さんが卒業後もご要望があれば全ての資料－専門の図書、学術雑誌－の閲覧に対して最大の誠意をもって対応するように努力しております。ややもすると従来よりのこの面に関しての積極的な宣伝がなされていなかったせいか、“卒業生、ＯＢには図書館は解放されていないのではないか”といった噂もあったようです。そんなことは断じてありません。是非とも卒業後もこの施設を充分に利用して皆さんの臨床の技術の向上、研究活動の活発化に役立てて欲しいものと思っております。おそらく大部分の卒業生の諸君にとって在学中の図書館はせいぜいのところ、実習のレポートを書く際の参考資料の置き場所くらいの意味しかなかったのではないでしょうか。しかし図書館の真価が発揮されるのはこれからです。どうか今後とも長い付き合いをして頂けることを図書館は皆さんに期待しております。

平成７年タニハ祭スナップ。帰ってきた“ものまねキッズ”。

図書館運営委員会記事

附　属　図　書　館

第１回、平成７年６月１日

出席者：北出教授、咲田教授、市川助教授、篠原助教授、谷口事務局長、西尾教務部長、森庶務部長、森本図書館長、福田図書館主査、織田図書館主査代理

１．報告事項

（１）蔵書の現況について

資料総数41,111冊で昨年度総数39,850冊より1,261冊の増加となった。雑誌については学術雑誌194種、一般雑誌24種の計218種で昨年度実績より14種の減となった。これは実数として減ったのではなく、これまで各教室の研究費で個別に、消耗品としてとっていたものまで図書館管理の雑誌としてカウントしていたものを本来の形に戻したためである。従って上記の218種については利用者に即提供できるものである。視聴覚資料は計584点で昨年度517点より67点増加

している。今後これらについては一層の増加が予想される。図書館としても努力していくつもりである。

（2）前年度の図書館利用状況について

貸出証発行件数、月別貸出件数を報告した。例年とおりの実績が確認された。開架図書数は10,600冊で昨年度6,428冊より4,172冊の増加となった。これで当面目標としていた開架作業は一段落した。

（3）前年度の収書状況について

1,384冊を収書した。視聴覚資料については73点を数えた。

（4）所在不明図書の除籍について

16冊、64,099円が所在不明であった。今後発見されないかぎり、平成8年3月31日をもって除籍することにした。

（5）私立大学図書館協会京都地区協議会の研修会開催について

当番が回ってきたため引き受けることとなった。ただし従来図書館が全ての作業を行なっていたが今後は事務局が全面的に執り行うこととなった。

2．協議事項

（1）学術雑誌の新規購読について

2件の依頼があった。1件は米澤学長よりのもので、Acta Neurovegetatics(Springer Verlag, 2万円／年）で購読が認められた。もう1件は博士課程1年の高橋氏よりのもので、International Journal of obesity and related metabolic disorders (Mcmillan Press, 2.1万円／年）である。これについては学生からの申し出は認められないという強い意見が出され、他の教官がこれを要求すれば再考しようということになった。

尚この件については内科中村教授より希望することを表明されたので次回運営委員会に再度提出する運びとなった。

（2）紛失図書の弁償について

従来から進めている不明図書の弁償はかなり協力してもらえたが、なお7名、15冊が処理されていない。これらについては今後事務局に一任し、図書館としてはタッチしないこととした。同時にこれまで弁償に応じた人と不公平にならぬよう厳正に対処するよう、要望が出された。

（3）その他

①書道部より館内に作品提示の依頼が出された。施設使用の他の条項も検討する必要があるので、事務局と協議をして返答することになった。

②8月1、2日にオープンキャンパスがあり、受験生への受験相談を図書館内で行なうこととなっているのを了承した。

③前回の運営委員会で了承された不要資料の除籍を行なうこととし、その資料を回覧する。異存がなければその後、学内に提示を出し、了承を得た後除籍を実施することにした。この件については最終的に理事長より今、学院の財産を減らすことは得策ではないのでしばらく待って欲しいという要望があり、当面除籍の処理を行なわないことになった。

④図書、雑誌の申し込み方法が皆に理解されていないのではないかという意見が出された。図書館は随時これを受け付けているのであるが、再度このことを通知の形で学内に配布することにした。

⑤学術雑誌の見直しをするため、使用状況をアンケート調査することになった。

⑥最近図書の無断帯出が異常に増加した。これまでなんの措置もとられていなかったが、とりあえず、無断帯出を行なった学生にその経緯と、反省の文章を提出させている。意見は長期間の図書館使用停止という強い処置をとる意見が強かった。この件については、管理運営委員会において、始めてのことであり、とりあえずは注意だけで済ませようということになった。繰り返される場合についてはそれなりの処分を考慮することになった。またクラス担任の先生に講義の時間を利用して学生に馬鹿なことをしないよう、説得してもらうことになった。

第2回、平成7年11月10日

出席者：咲田教授、市川教授、篠原助教授、谷口事務局長、西尾教務部長、森本図書館長、福田図書館主査、織田図書館主査代理

1．報告事項

（1）京都地区協議会研究海書誌）について

上記研究会が10月26日（木）13時50分から16時20分に附属病院5Fカンファレンスルームにて開催され、14大学16名の参加があり、尾崎教授、篠原助教授の講演の後、一部の希望者が図書館の見学を行い、無事終了した。

（2）学術雑誌の使用頻度アンケート調査結果について

上記アンケート調査の結果について報告があり、今後見直しの必要が生じた場合はこの結果を参考にすることが確認された。

（3）破損図書の除籍について

現代生物学演習の破損が著しいのでこれを除籍することにした。

（4）図書館報について

従来の方針に基づき発行することとした。

（5）その他

①図書館内での書道部の作品展示は暫定的に許可し、様子をみたうえで最終的に判断することにした。

②図書の無断帯出者の処分は見合わせ、始末書の提出に留めることとした。

③不要資料の除籍は理事長より新規事業との兼ね合いで見合わせて欲しいという要求があり、当面中止することとした。ただその保管場所が問題であり、倉庫の確保を事務局に依頼することになった。

④図書の選定申し込みが少ないので、事務局の方でも周知徹底を図りたいとの報告があった。

2．協議事項

（1）来年度の予算概算請求案について

原案にもとずき協議され承認された。次回より実績を参考として追加することとした。

（2）学術雑誌の新規購読について

以下の5点について承認された。

① Obesity（内科教室）

② Biotherapy（外科教室）

③ 中華医史雑誌（鍼灸診断学教室）

④ 医古文知識（鍼灸診断学教室）

⑤ 天津中医（鍼灸診断学教室）

（3）その他

①事務局長より個人貸出し以外に教室への貸出しについて要望があり、協議の結果、図書館長が原案をつくり学長等と調整し試験的に運用を試みることとした。

②学内ＬＡＮの導入について西川研究委員長より説明があり、図書館側からの要求について質問があった。

平成7年10月26日本学にて開催された京都地区私立大学図書館協議会書誌研究会。中村学部長による開会のあいさつ。

図書館データ、データ

－ 亡失図書の推移 －

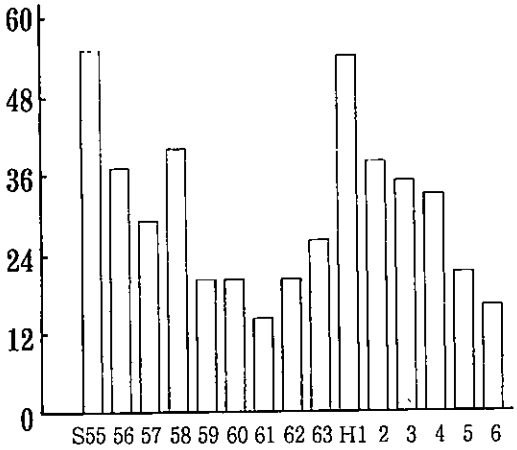
附　属　図　書　館

本欄も3回目を迎えることとなりました。これまでは蔵書数、開架図書数といったいわば上品な話ばかりしてきましたので、ここいらで生臭い、いわば恥部を、すなわち上記のような表題を取り上げてみることにしました。“亡失”というのは、図書館用語で行方不明という意味です。これには二つの場合があります。一つは責任者がはっきりしている場合で、ついうっかり借り出した本をどこかへ無くしてしまったと言うようなときです。このときはきついようですが、当人に賠償をして頂くことになります。少々のことはいいじゃないかという意見はもち

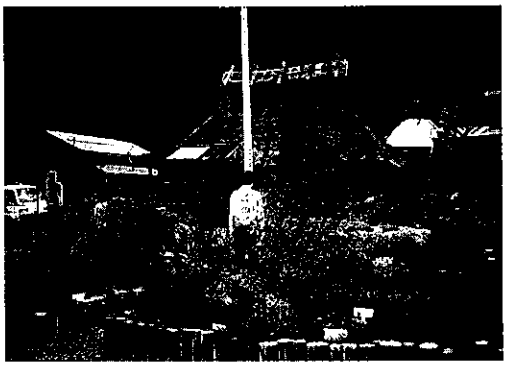
ろんありますが、現在会計上の図書は固定資産となっておりそう簡単にうやむやに処理できないようなシステムになっております。しかしこの場合は特に問題になることはありません。問題なのは責任者がどうにもこうにも判らない場合、はやくいってしまえば、かっぱらい、万引きの場合です（正規にはこれを無断帯出というそうです)。昔から図書館の敵は火、水、虫といわれていたそうです。ところが最近新手の敵が加わりました。それは“人”です。要するにかっぱらい。スーパーでの万引きと同じ犯罪です。これはどこの図書館でも頭を痛めている問題で、ために何百万円もするbook detection systemを購入し、更に何千万円もかけて図書1冊、1冊に磁気ワイヤーを装着するといったありさまです。本図書館でもこのようなシステムを取り入れるよう要求されたこともありますが、現在のところ導入するつもりはありません。費用がかかるからということもありますが、それよりも本学の利用者の良識に期待したいからです。ここは小さい学校です。学生、教官、事務員等がお互いに顔と名前を知り合っているという事情もあります。そんな泥棒を想定したような対処を考えるのは淋しいかぎりです。

残念ながらこのような淡い期待も、こっそりと図書を持ち出されますと手の打ちようがありません。特に今年度は6、7月段階においてたて続きに無断帯出事件が発生し、図書館員をあわてさせました。ほおっておくわけにはいかず、別紙のような警告文を発し、クラス担任の先生方をわずらわせて学生諸君に訴えた次第です。欲しい資料、図書がありましたら、多少の無理をしてでも図書館はこれを取り揃えます。しかしそれらは皆のものです。私物化しようとする歪んだ欲望だけは、これを抑えて頂きたくせつにお願いする所存です。

泣き言はこれくらいにして、データを示します。(表と図)



年	冊数	金　額	累計冊数	累計金額
S55	55	139,977		139,977
S56	37	91,125	92	231,102
S57	29	73,714	121	304,816
S58	40	150,234	161	455,050
S59	20	61,140	181	516,190
S60	20	72,410	201	588,600
S61	14	41,300	215	629,900
S62	20	84,462	235	714,362
S63	26	135,077	261	849,439
H1	54	195,068	315	1,044,507
H2	38	124,502	353	1,169,009
H3	35	96,553	388	1,265,562
H4	33	94,153	421	1,359,715
H5	21	74,460	442	1,434,175
H6	16	64,099	458	1,498,274



北桑田郡美山町下平屋のハーブファーム。各種のハーブが所狭しと植え込んである。ときは10月。花の競演はないが、ミント、ステビア、ラベンダの香がかぐわしい。

平均年31冊、金額にして10万円になっております。平成元年頃被害のひどかったことがあったようですが、最近ではすこしおさまっているようです。しかしそれといって喜んではいられません。恥には違いないのです。すでにして累計458冊、150万円ちかい損失があったのです。

最近特に問題なのは無断帯出にたいしてほとんど罪の意識のないことで、極々気軽になされていることです。友達がやっているから自分もやらねばといった馬鹿げた行動だけは慎んで頂きたいものです。犯罪行為であるという認識をもって頂くようせつにお願いします。

クラス担当の先生へ図書館よりのお願い

附属図書館長　森　本　安　夫

まことに残念なことですが、最近図書の無断帯出が相次いでおります。既に5月以来5名の学生が発見され反省書を提出し図書館およびクラス担任の先生から厳重な注意がなされております。聴くところによるとほとんど罪悪感がなくごく気軽に行なっていたようです。これを放置しますと無断帯出が今後大幅に増加する懸念があります。そのような事態に至りますと図書館がこれまですすめてきた開架図書の大幅増という作業を中断せざるを得なくなります。これは大部分の真面目な学生諸君にとって大きな不利益となります。この際ご面倒ですがクラス担任の先生にお願いして、夏休み明けの講義の時間の一部をお借りして学生諸君に警告と注意をして頂くことに致しました。以下の事項について学生諸君に注意を喚起して頂きたく存じます。

1. 図書は現在の税法では固定資産（財産）として登録されており無断帯出が続けば管理責任が問われ大学全体に不利益が生じること。
2. 無断帯出は故意であるか否かを問わず重大な犯罪であること（万引きに担当）。
3. そのようなことが続けば図書の開架を中止せざるを得ず、学生諸君の大きな不利益になること。
4. 無断帯出を続けた場合懲戒処分をせざるを得ず、これは就職に際して大きな不利益になること。
5. 他の利用者に大きな迷惑をかけていること。
6. その他の件－静粛、飲食喫茶の禁止、図書を元の場所に返す－に関しては利用者の心得（学生便覧の図書館の項）を充分読むこと。

▶図書館学うんちく◀

大学図書館と図書館の自由

附属図書館　福　田　代　見

戦前における言論・思想の弾圧、出版、表現の抑圧、善導思想の普及、思想調査などの苦い体験を踏まえ、図書館界は1954年「図書館の自由に関する宣言」を採択した。

採択当初は、このような政治的社会的背景があり「国家権力からの自由」という「図書館の中立性」に根拠が求められていたが、憲法による民主主義の基本概念の発展とともに、「国家権力からの自由」という受身的な「図書館の自由」から国民の基本的人権のひとつの「知る自由」を保障するという本質的なものが厳しく問われるようになった。

「宣言」の内容は次のとおり。

図書館の自由に関する宣言

－1979年改訂－

社団法人日本図書館協会総会決議

1979年5月30日

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。

1　日本国憲法は主権が国民に存するとの原理にもとづいており、この国民主権の原理を維持し発展させるためには、国民ひとりひとりが思想・意見を自由に発表し交換すること、すなわち表現の自由の保障が不可欠である。

知る自由は、表現の送り手に対して保障されるべき自由と表裏一体をなすものであり、知る自由の保障があってこそ表現の自由は成立する。

知る自由は、また、思想・良心の自由をはじめとして、いっさいの基本的人権と密接にかかわり、それらの保障を実現するための基礎的な要件である。それは、憲法が示すように、国民の不断の努力によって保持されなければならない。

2　すべての国民は、いつでもその必要とする資料を入手し利用する権利を有する。この権利を社会的に保障することは、すなわち知る自由を保障することである。図書館は、まさにこのことに責任を負う機関である。

3　図書館は、権力の介入または社会的圧力に左右されることなく、自らの責任にもとづき、図書館間の相互協力をふくむ図書館の総力をあげて、収集した資料と整備された施設を国民の利用に供するものである。

4　わが国においては、図書館が国民の知る自由を保障するのではなく、国民に対する「思想善導」の機関として、国民の知る自由を防げる役割さえ果たした歴史的事実があることを忘れてはならない。図書館は、この反省の上に、国民の知る自由を守り、ひろげていく責任を果たすことが必要である。

5　すべての国民は、図書館利用に公平な権利をもっており、人権、信条、性別、年齢やそのおかれている条件等によっていかなる差別もあってはならない。

外国人にも、その権利は保障される。

6　ここに掲げる「図書館の自由」に関する原則は、国民の知る自由を保障するためであって、すべての図書館に基本的に妥当するものである。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

第1　図書館は資料収集の自由を有する。

1　図書館は、国民の知る自由を保障する機関として、国民のあらゆる資料要求にこたえなければならない。

2　図書館は、自らの責任において作成した収集方針にもとづき資料の選択および収集を行う。

その際、

(1)　多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。

(2)　著者の思想的、宗教的、党派的立場にとらわれて、その著作を排除することはしない。

(3)　図書館員の個人的な関心や好みによって選択しない。

(4)　個人・組織・団体からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄したり、紛糾をおそれて自己規制したりはしない。

(5)　寄贈資料の受入れにあたっても同様である。

図書館の収集した資料がどのような思想や主張をもっていようとも、それを図書館および図書館員が支持することを意味するものではない。

3　図書館は、成文化された収集方針を公開して、広く社会からの批判と協力を得るようにつとめる。

第2　図書館は資料提供の自由を有する。

1　国民の知る自由を保障するため、すべての図書館資料は、原則賭して国民の自由な利用に供されるべきである。

図書館は、正当な理由がないかぎり、ある種の資料を特別扱いしたり、資料の内容に手を加えたり、書架から撤去したり、廃棄した

りはしない。

提供の自由は、次の場合にかぎって制限されることがある。これらの制限は、極力限定して適用し、時期を経て再検討されるべきものである。

(1) 人権またはプライバシーを侵害すもの。

(2) わいせつ出版物であるとの判決が確定したもの。

(3) 寄贈または寄託資料のうち、寄贈者または寄託者が公開を否とする非公刊資料。

2 図書館は、将来にわたる利用に備えるため、資料を保存する責任を負う。図書館の保存する資料は、一時的な社会的要請、個人・組織・団体からの圧力や干渉によって廃棄されることはない。

3 図書館の集会室等は、国民の自主的な学習や創造を援助するために、身近にいつでも利用できる豊富な資料が組織されている場にあるという特徴をもっている。

図書館は、集会室等の施設を、営利を目的とする場合を除いて、個人、団体を問わず公平な利用に供する。

4 図書館の企画する集会や行事等が、個人・組織・団体からの圧力や干渉によってゆがめられてはならない。

第3 図書館は利用者の秘密を守る。

1 読者が何を読むかはその人のプライバシーに属することであり、図書館は、利用者の読書事実を外部に漏らさない。ただし、憲法第35条にもとづく令状を確認した場合は例外とする。

2 図書館は、読書記録以外の図書館の利用事実に関しても、利用者のプライバシーを侵さない。

3 利用者の読書事実、利用事実は、図書館が業務上知り得た秘密であって、図書館活動に従事するすべての人びとは、この秘密を守らなければならない。

第4 図書館はすべての検閲に反対する。

1 検閲は、権力が国民の思想・言語の自由を抑圧する手段として常用してきたものであって、国民の知る自由を基盤とする民主主義とは相容れない。

検閲が、図書館における資料収集を事前に制約し、さらに、収集した資料の書架からの撤去、廃棄に及ぶことは、内外の苦渋にみちた歴史と経験により明らかである。

したがって、図書館はすべての検閲に反対する。

2 検閲と同様の結果をもたらすものとして、個人・組織・団体からの圧力や干渉がある。図書館は、これらの思想・言論の抑圧に対しても反対する。

3 それらの抑圧は、図書館における自己規制を生みやすい。しかし図書館は、そうした自己規制におちいることなく、国民の知る自由を守る。

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。

1 図書館の自由の状況は、一国の民主主義の進展をはかる重要な指標である。図書館の自由が侵されようとするとき、われわれ図書館にかかわるものは、その侵害を排除する行動わ起こす。このためには、図書館の民主的な運営と図書館員の連帯の強化を欠かすことができない。

2 図書館の自由を守る行動は、自由と人権を守る国民のたたかいの一環である。われわれは、図書館の自由を守ることで共通の立場に立つ団体・機関・人びとと提携して、図書館の自由を守りぬく責任をもつ。

3 図書館の自由に対する国民の支持と協力は、国民が、図書館活動を通じて図書館の自由の尊さを体験している場合にのみ得られる。われわれは、図書館の自由を守る努力を不断に続けるものである。

4 図書館の自由を守る行動において、これにかかわった図書館員が不利益をうけることがあってはならない。これを未然に防止し、万一そのような事態が生じた場合にその救済につとめることは、日本図書館協会の重要な責務である。 以上

大学図書館においてもこの「宣言」の精神に照らし、図書館の自由についての基本的立場やその取り組みなどについて、もっと論議を深め、具体的な施策を深めていく必要があるのではな

いか。

この「宣言」の中の利用者の秘密を守る（プライバシーの保護)。については、貸出記録の取り扱い等の問題もある。このことは日常的に最も多く扱う業務でありプライバシーを守るうえでの図書館の自由と関わる最も重要な課題である。これらプライバシーの保護の必要性をどう捉えているか。ある大学の学生のアンケートの一例を次に紹介する。

質問事項「誰が何を読んだかなどの読書記録を第3者には公表しないことについてプライバシー保護が必要か」に対して、必要と思う理由として次のようなものが挙げられている。

・他人に話せないような悩みなどの解決を、本から得ようとすることもあるから。また個人の興味の方向を他人が知るべくもないと思うので。

・図書館で利用の秘密を教えることは、病院で他人にカルテを見せるのと同じことだ。

・言語、思想の管理になると思われるため。

・知られたくない人もなんらかの事情でいると思うから。

・さまざまなデータとして記録されるのは不愉快だから。

・図書館で書物を借りるということは、個人の生活の中で自由の一部である。

・企業が就職の際、参考にするおそれがある。まだダイレクトメールにも使われる。

また、必要と思わない理由を次のように記述している。

・読んだ本を他人に知られようが別に自分の利害に関係ない。また自分の尊敬する人、あるいは関心を抱いている人がどんな本を読んでいるか知りたいと思う。

・プライバシーを守ってほしいのなら、自分で本を買うべきである。

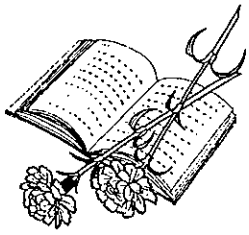
・本を借りることくらいで、こそこそする必要はない。

・どんな本を借りていようと、その本の題名うんぬんでその人の思想を判断したりしようと思わないから。

・別に知られて困ることはないし、それが悪用されることもないだろうから。

大学は国民から付託された大学の自治により、社会から相対的に独立し、学問の自由、思想信条、表現の自由が侵害されることが少なく、自由についての取り組みはあまりなじんでいないので必要性はないと考えている人も若干いるが、この利用者の率直なアンケートの回答から図書館が利用者のプライバシーを守る大切な意味を受けとめ、考えてみる必要があるのではないか。

平成7年月12日大雨洪水警報発令により休講。その日の大厦川（上)。大厦川第1鉄橋近く。下は普通の日のもの。



新着東医系図書及び医学系視聴覚資料一覧 （平成7年1月～12月収蔵分）

解説　十、室町　三、安土桃山　三、江戸前期　十、江戸中期　十六（臨床鍼灸古典全書　58）
篠原孝市監修　オリエント出版　1994.12
中国資料　十四（臨床鍼灸古典全書　59）
篠原孝市監修　オリエント出版　1994.12
中国資料　十五（臨床鍼灸古典全書　60）
篠原孝市監修　オリエント出版　1994.12
中国資料　十六（臨床鍼灸古典全書　61）
篠原孝市監修　オリエント出版　1994.12
中国資料　十七（臨床鍼灸古典全書　62）
篠原孝市監修　オリエント出版　1994.12
中国資料　十八（臨床鍼灸古典全書　63）
篠原孝市監修　オリエント出版　1994.12
鍼灸への招待　－歴史と科学－
高島文一、川俣順一著　裳華房　1994.08
鍼灸医学における実践から理論へ　パート1
－北辰会は何をアピールするのか　パート1－
藤本蓮風著　谷口書店　1993.12
鍼灸医学における実践から理論へ　パート2
－いかに弁証論治するのか　その1－
藤本蓮風著　谷口書店　1994.06
鍼治療学の基礎と臨床　Ⅲ　鍼作用機序研究の検討
欧州編　宮沢康朗、戸田一雄著
メディサイエンス社　1994.11
針灸臨床治療法集　木村律、邵輝著
たにぐち書店　1993.04
はり師きゅう師・あん摩マッサージ指圧師国家試験全科の要点　鍼灸・手技教育研究会編
医歯薬出版　1994.01
鍼術完成講座　難病に挑む　－上級向－
杉山勲著　緑書房　1994.06
刺絡治療　図説　工藤訓正著　緑書房　1994.08
よくわかる奇経治療　宮脇和登著
たにぐち書店　1994.10
経絡学入門　基礎篇　藤田六朗著　創元社　1980.02
経絡学入門　臨床応用篇　藤田六朗著　創元社　1986.07
熱鍼刺激療法　平田式十二反応帯　間中喜雄著
医道の日本社　1983.04
東洋医学臨床論　はりきゅう編　教科書執筆小委員会著　東洋療法学校協会編　医道の日本社　1995.03
東洋医学臨床論　はりきゅう編　教科書執筆小委員会著　東洋療法学校協会編　医道の日本社　1995.03
はり師きゅう師・あん摩マッサージ指圧師国家試験全科の要点　鍼灸・手技教育研究会編
医歯薬出版　1994.01
針灸学　臨床篇　天津中医学院、後藤学園編
兵頭明監訳　東洋学術出版　1994.12
臨床経穴学　李世珍著　兵頭明訳
東洋学術出版社　1995.05
鍼治療学の基礎と臨床　Ⅲ　鍼作用機序研究の検討
欧州編　宮沢康朗、戸田一雄著
メディサイエンス社　1994.11
針灸臨床治療法集　木村律、邵輝著
たにぐち書店　1993.04
臨床経穴学　李世珍著　兵頭明訳
東洋学術出版社　1995.05
耳針療法　趙吉平著　上村澄夫訳
東洋学術出版社　1994.05
臨床経穴学　李世珍著　兵頭明訳
東洋学術出版社　1995.05
灸に生きた一人の男　自分史　亀岡光治著
不動灸　1995.05
鍼治療学の基礎と臨床　Ⅲ　鍼作用機序研究の検討
欧州編　宮沢康朗、戸田一雄著
メディサイエンス社　1994.11
鍼治療学の基礎と臨床　Ⅲ　鍼作用機序研究の検討
欧州編　宮沢康朗、戸田一雄著
メディサイエンス社　1994.11
鍼治療学の基礎と臨床　Ⅲ　鍼作用機序研究の検討
欧州編　宮沢康朗、戸田一雄著
メディサイエンス社　1994.11
鍼治療学の基礎と臨床　Ⅲ　鍼作用機序研究の検討
欧州編　宮沢康朗、戸田一雄著
メディサイエンス社　1994.11
臨床経穴学　李世珍著　兵頭明訳
東洋学術出版社　1995.05
筋筋膜痛の治療　－ハリ治療の西洋医学的手法－
C. Chan Gunn 著　大村昭人、北原雅樹訳
克誠堂　1995.07
ツボ療法大図鑑　新版　－ツボの基礎知識と臨床応用のすべて－　芹澤勝助著　リヨン社　1995.06
東洋医学善本叢書　16　太平聖恵方（一）
オリエント出版社　1991.07
東洋医学善本叢書　17　太平聖恵方（二）
オリエント出版社　1991.07
東洋医学善本叢書　18　太平聖恵方（三）
オリエント出版社　1991.07
東洋医学善本叢書　19　太平聖恵方（四）
オリエント出版社　1991.07
東洋医学善本叢書　20　太平聖恵方（五）
オリエント出版社　1991.07
東洋医学善本叢書　21　太平聖恵方（六）
太平聖恵　方正誤、解説・参考資料
オリエント出版社　1991.07
東洋医学善本叢書　30　宋版　経史證類備急本草（一）
オリエント出版社　1992.07
東洋医学善本叢書　31　宋版　経史證類備急本草（二）
オリエント出版社　1992.07
東洋医学善本叢書　32　宋版　経史證類備急本草（三）
オリエント出版社　1992.07
東洋医学善本叢書　33　宋版　経史證類備急本草（四）
オリエント出版社　1992.07
東洋医学善本叢書　34　宋版　経史證類備急本草（五）
オリエント出版社　1992.07
トリガーポイント鍼療法　Peter E. Baldry著
川喜田健司監訳　医道の日本社　1995.08
トリガーポイント鍼療法　Peter E.Baldry著
川喜田健司監訳　医道の日本社　1995.08

トリガーポイント鍼療法　Peter E. Baldry 著
川喜田健司監訳　医道の日本社　1995.08
トリガーポイント鍼療法　Peter E. Baldry 著
川喜田健司監訳　医道の日本社　1995.08
トリガーポイント鍼療法　Peter E. Baldry 著
川喜田健司監訳　医道の日本社　1995.08
トリガーポイント鍼療法　Peter E. Baldry 著
川喜田健司監訳　医道の日本社　1995.08
トリガーポイント鍼療法　Peter E. Baldry 著
川喜田健司監訳　医道の日本社　1995.08
トリガーポイント鍼療法　Peter E. Baldry 著
川喜田健司監訳　医道の日本社　1995.08
難経注解叢刊　1　扁鵲八十一難経弁正条例　写本之一、扁鵲八十一難経弁正条例　写本之二、難経註、難経本義補遺　他　篠原孝市監修
オリエント出版社　1994.10
難経注解叢刊　2　難経雲庵抄、難経邃庵抄、難経本義抄、難経抄　篠原孝市監修
オリエント出版　1994.10
難経注解叢刊　3　難経捷径、難経本義摭遺
篠原孝市監修　オリエント出版　1994.10
難経注解叢刊　4　首書難経本義、難経註疏、医教正意（抄）篠原孝市監修　オリエント出版　1994.10
難経注解叢刊　5　難経本義備考、難経或問、難経標註　篠原孝市監修　オリエント出版　1994.10
難経注解叢刊　6　難経口問口伝鈔、難経管窺精義、難経達言、黄帝八十一難経愚得、難経発揮、仮名難経　篠原孝市監修　オリエント出版　1994.10
難経注解叢刊　7　難経滑義補正、難経明義、難経韻語図解、難経文字攷、難経本義助講録、八十一難経存疑　篠原孝市監修　オリエント出版　1994.10
難経注解叢刊　8　黄帝八十一難経輯釈備考、難経本義難疏　篠原孝市監修　オリエント出版　1994.10
脈経版本叢刊　9　明・影宋何大任刊本　脈経、元・葉氏広勤書堂刊本　新刊　王氏脈経、日本影鈔・明成化十年畢玉刊本　脈経　他　篠原孝市監修
オリエン出版　1994.10
脈経版本叢刊　10　明・沈際飛校刊本　王氏脈経、明・繆希雍校刊本　脈経、日本・慶長古活字本　脈経、四時経攷注、難経・脈経研究論文集
篠原孝市監修　オリエン出版　1994.10
高齢者ケアのための鍼灸医療　－鍼灸の新しい概念を求めて－　丹澤章八編　医道の日本社　1995.04
Cross-sectional anatomy of acupoints.
Eachou Chen.　Churchill Livingstone 1995.
Acupuncture point combinations. －The key to clinical success.- Jeremy Ross.
Churchill Livingstone 1995.

〔点字図書〕
最新理療臨床セミナー　第1巻　矢野忠編著
毎日新聞社点字毎日部　1995.07
最新理療臨床セミナー　第2巻　矢野忠編著
毎日新聞社点字毎日部　1995.07

〔視聴覚資料〕
医事博物館　CD-ROM Macintosh対応
近世史料研究所編　プロコムジャパン　1994.
ザ・漢方　－プロから一般まで漢方に興味のある方の為の漢方データベース－ Macintosh 版
カイムール　1993.
中医舌診　1.　上海中医薬大学
中国伝統医学教育センター
MRI の原理　1　東芝メディカル
MRI の原理　2　東芝メディカル
中医鍼灸手技　上海中医薬大学
中国伝統医学教育センター
中医経絡　上海中医薬大学　中国伝統医学教育センター
外来での神経診察　Video & Text　木下真男著作
メディカル・サイエンス・インタ　1993.09
膝の痛み（ビデオ・リハビリテーションシリーズ）
林恭史指導・出演　ビデオジャポニカ
マックで治すアトピー性皮膚炎　－CD-ROM for Macintosh－　水島圭一著　水島圭一内科医院
矯正治療中のブラッシング　－めざせGOAL！－（矯正歯科治療成功のためのブラッシング）
窪田勝信、山本静監修・指導　医学情報社　1994.06
36式気功太極拳　沈再平監修・出演
大修館書店　1993.

編集後記

○前号の予告どおり巻頭の言は小関病院長に“臨床教育において図書館に期待するもの”というテーマで一筆お願いした。さて来年は誰に頼もうか？順番からいって、東洋医学教育が狙い目かな。○カット写真に大学近辺の名勝旧跡を載せることにした。初回は丹波町水戸の琴滝と美山町のハーブファームにした。琴滝は映画のロケ地にもなるらしい。ハーブファームは現在美山町が売出し中の場所である。風景だけでは寂しいので学生に頼み込んでモデル観光客になってもらった。さて私はだれでしょう？○年来の宿題であった図書貸出の自動化が“遅蒔ながら”平成8年度から実施できる運びとなった。軌道に乗ればこれで我々職員の負担も大幅に減り、かつ利用者の便も増す（はずだ）。もちろん新規施策にトラブルはつきものだがまずはホット一安心。○図書の無断、不法帯出（要するにパクリ）は図書館職員の悩みの種だ。特に今年は一時期相次いだ。イチャモンをつけたとき、間違っていたら相手に申し訳ないし、かといって見過ごすわけにはいかぬ。データ・データはその間の事情を伝えてくれるだろうか？要望はなんでも（？）聴きます。かっぱらいだけはやめて下さい。○図書館報を一新してもう3号が過ぎる。マンネリの重い足音が聞こえてくるようだ。“こんなことを載せて欲しい”といった外部からの要望があれば有り難いのだが。